

第8回

鳥獣被害対策便り

ニホンザルの被害防止対策①

今月の鳥獣被害対策便りは「ニホンザルの被害防止対策」についてです。ニホンジカ・イノシシといった大型獣に並んで村内でも農作物被害や人家近くへの出没が多いニホンザルですが、学習能力が非常に高くあの手この手で加害してくるため、一朝一夕の対処では解決しません。まずはどのようなときに何をすれば被害を避けることができるのかを知るために、知恵比べの相手であるニホンザルのことを確認しておきましょう。また、次号では「対策」についてご紹介しますので併せてお読みください。

◇問い合わせ先 農林振興課 ☎ 96-1256

●ニホンザルの食性

基本的には雑食性で、奥山に生息している場合は木の実やキノコ、昆虫などを採食しています。しかし、集落の近くに生息していて農作物の味を覚えたニホンザルは、カキ、カボチャ、トウモロコシ、クリ、モモなど栄養価の高いものを特に好みます。また、餌となるものは遺伝的に決まっているわけではなく、その土地にあるイネ、マメ類、イモ類、ネギ、キュウリ、ナス、ダイコン、トマト、イチゴなどが対象となります。

ニホンザルにとって放置果樹や収穫残渣がある場所は格好の餌場となり、集落への依存度を高めてしまうだけでなく、栄養状態や生存率を向上させてしまう可能性があるため、特に注意が必要です。

●ニホンザルの特性

五感は人間とほぼ同等と言われていますが、身体能力は助走なしで垂直に2m近くジャンプすることができるので、通常の防除柵では簡単に飛び越えられてしまいます。

また、新しいものや状況、場所への警戒心は強いですが、いったん慣れてしまうと大胆不敵な行動をとりはじめます。記憶力も良いため餌場と認識した場所には何度も通うことがありますが、一方で嫌な思いをした場所や人には近づかなくなるので、これをうまく利用して対策に繋がります。

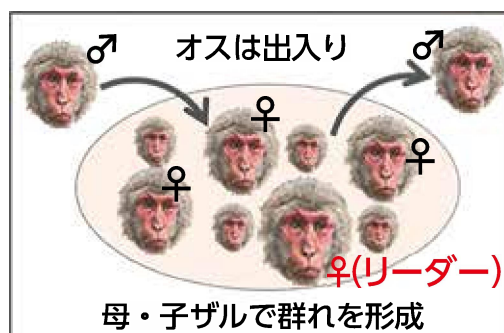


●ニホンザルの行動

活動時間は日の出～日没までで基本的に夜間は行動しないとされています。メスとその子で10～100頭程度の群れを作り一定範囲を行動しますが、オスは成熟すると群れから離れたり他の群れに合流したりと、いわゆる離れザルとして単独行動をします。

ちなみに、動物園などでは喧嘩の強いオスが群れのボスザルというイメージがついていますが、野生の群れの中心的存在はメスが担っています。そのメスがいなくなると群れは複数に分裂して被害が広範囲に拡大する恐れもあるため、群れの管理には慎重を期す必要があります。

また、奥山で生活しているメスに比べて、集落付近で栄養価の高い食物ばかりを食べているメスは栄養状態が良いこともあり、初産の年齢も若く、その後の出産頻度も短くなるため群れの個体数が増加する傾向にあります。



	初産	出産頻度	寿命
奥山で生活	7～8歳	2～3年	約20歳
集落付近で生活	5～6歳	1～2年	約28歳